

各位

株式会社トランスジェニック

### 第 22 期定時株主総会の質疑応答の要旨について

2020 年 6 月 17 日(水)、第 22 期定時株主総会を開催し、2 名の株主様から 3 件のご質問を頂き、代表取締役社長 福永が回答致しましたので、その要旨をお知らせいたします。

#### 記

(質問要旨) (株)安評センター(以下、安評センター)の立地している場所に対する自然災害対策をどのように認識しているのか、またその対策をお聞かせください。南海トラフ地震等による巨大津波の危険が懸念されるが、このような場所で投資を続けることは心配である。

(回答要旨) ご指摘のように太平洋側に面しており、南海トラフの地震災害を認識しています。地震災害を想定して年 1 回の避難訓練を実施しています。3 階建ての建屋(7 号館)があり避難可能で、実験施設も底上げしているので浸水は防げるものと想定しています。実際の安評センターの場所は、面している湾の形状から直接的に津波の被害を受ける可能性は低いとのこと。地震による停電が発生した場合は、自家発電設備を有していますので、動物舎の飼育環境の悪化は防げるものと想定しています。当社の動物施設は神戸市、静岡県磐田市、北海道恵庭市の 3 拠点あるので、被害を受ければ事業に影響はでるが継続性については可能であると考えています。また、建物の立地と構造、日ごろの避難訓練の実施状況から、従業員の安全性は担保されていると考えています。

(質問要旨) 中長期的なグループ成長、利益成長をお考えかお聞かせください。

(回答要旨) 今期の業績予想は新型コロナウイルス感染が未だ終息しておらず業績への影響が不透明であるので、判明次第公表予定です。

当社は、CRO 事業を中心としたバイオセグメント(CRO 事業及び診断解析事業)と投資事業セグメント(TGBS 事業)で構成されています。CRO 事業における安評センターは、設備・人材の面からみると稼働率 50%程ですので、現有の設備、既存会社の売上から試算するとバイオセグメントは中長期的に 35 億~40 億くらいの売上、営業利益 4~6 億の水準と考えています。またこの既存事業に係る業績再拡大の目途がつき次第、M&A もしくは業務提携を実施してさらなる拡大を図る予定です。TGBS 事業は、当初の目的であった本社費用約 2 億の吸収については前期に達成しました。基本的に財務体質を維持しながら(営業キャッシュ・フローの範囲内)、良い案件があれば投資を実施していきます。

TGBS セグメントは中長期的に売上 100 億、営業利益 6 億規模と考えています。

(質問要旨) グループは CRO 事業と TGBS 事業に大別されているが、今後の成長セグメントをどこに位置付けているのかお聞かせください。

(回答要旨) CRO 事業を中心としたバイオセグメントについては、受注の年と売上の年とが交互にありながら増減を繰り返しながら成長していくと考えています。TGBS 事業においては、投資基準（黒字、ニッチ、安定、投資回収期間）を設定しているので、急成長ではないものの順調に拡大していくと考えています。

両事業のうち、当社が柱と考えているのは創薬支援を行う CRO 事業です。当社は網羅的な創薬支援プラットフォームを有しており、今後創薬シーズを有する企業にその技術を提供し共同開発する実績を積み重ね、創薬開発に進出していきたいと考えています。これが実現すると将来収益を見据えた株価評価に繋がるのではないかと考えています。

以上